（遞信省認可）　（本號六頁）　明治二十三年十二月卅一日　（定價金二錢）

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報

第二千八百八十五號
明治廿三年十二月卅一日水曜日
舊曆庚寅十一月二十日（丙、戌）
日出午前六時五十二分
日入午後四時三十六分
月出午後九時十分
月入午前十時二十三分
滿潮午前八時二十三分
滿潮午後八時四十一分
（西曆一千八百九十年）

一月一日の紙上

明治廿四年一月一日の時事新報には**種々の漫畫**を挿入して讀者の笑覽に供すべし

歲末歲首の廣告

歲末歲首の時事新報に廣告御掲載相成度方は可成至急御申込被下度左の期日に後れたる廣告の申込は御依頼に應せざる事あるべし

二日の紙上に掲ぐる者　三十一日迄

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓

○時事新報ハ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

各地方より時事新報の注文に付

時事新報社は注文に接するも代價を受取らざる間は遞送せざる定めあるに新規注文の方には往々代價を添へずして唯だ注文のみの書面に止り本社は更に代價請求の端書を發し代金を受取るまで遞送を差控へ居り候事にて雙方の不便なれば御注文の節は必ず代價を添へて御申込被下度尤郵便切手代用は御斷申上候

代價を受取りたる時は直ちに新報を遞送し其帶封名宛の傍に何月何日と記入致し候是れは右の月日まで新報の代價遞送料共領收候證に付別に受取書は不差出候左樣御承知可被下候

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

明治二十三年

明治二十三年も今や將に盡きんとす歲末に臨んで既往の日月の匆々たるに驚くは毎年人々の常例なれども本年は取分け驚きを覺えて春夏秋冬四季の變遷も猶は昨今を隔つるが如きの感あるは蓋し社會の形勢の爲に多事なりしが故なるべし回顧すれば經濟社會に金融必迫の聲を催はして高く世間に喧傳したるは本年々初よりの事にして此年勃興したる株式會社に關係の人々は最も其衝に當り全體に於ては敢て左程の事もなかりしかど日本銀行が爲めに新たに擔保品を定め又根抵當を許し或は兌換銀行券の發行額を進むる等その動搖一方ならず五月頃に至りて纔に靜定したるが如くなりしかども其靜定は日本銀行の融通を開きたるによりて頓に衰運を挽回したるの故に非ず恰も漸く衰運の涸渇したる姿なりしことなれば爾來今日に至るまで諸會社中には區々の間に定めて幾多の浮沈もありしなるべく年末の際苦心經營者ならざるもある可し要するに其困難は今年を以て終りとなさず明年に繼續して重ねて一層の波瀾を生ずることあらん歟と我輩の今より竊に掛念する所なり又本年來米價不廉にして物價騰貴多なりしが爲め米價の騰貴を來して都鄙の騷擾最も甚だしく細民の困難殆んど聞くに忍びずして一段暴動の沙汰さへあり政府は之が爲めに外國米を輸入して一時の急を救ふ等臨時の處置もありしが日を經るに從ひ農作は却て豐なるべしとの吉報を齎らし米價漸く下落して世間の愁眉を開きたると共に年はいよ〳〵豐年の實を顯はしたれども左ればとて米價は濫りに下落せず例年よりは餘程高きを得て民間に潤澤を與へたるは誠に慶事と云はざるを得ず又外國との貿易は前半季に於て彼の外國米の輸入もあり其他全體に輸入の輸出に超過し居たる所へ米國銀貨案の結果は後半季に於て激しく爲替相場の變動を與へ爲めに生絲の如きは最も其實行を妨げられて橫濱の絲場に未曾有の在荷を見たる等の事情より大に輸出入の不平均を來し世人をして其前途を危ぶましめたる程なりしが去月の初頃より爲替相場の下落と共に多少生絲の手合はせを生じて隨て輸出に百萬圓餘の超過を見るに至りたれども其額の僅小なるのみと例年の比にあらず毎々一年中の輸入超過を塡補すべき季節に當りて斯までに商勢の振はざるは生絲商人のみか國の爲めに計りて安からざる事と云ふべし近報によるに彼の銀貨案も米國に於て永く其方針を持續するみと能はざるやの趣あれば其變動の吉凶は或は明年に至りて之を見るべきか今より當事者の注意を要するみとある可し、經濟社會の事情は概ね此の如くにして平年無事の時ならば世人の注意を促すみとも亦一層切なるべきに政治社會の形勢は更に人心を動搖せしむるものありて六七月の交に當り國會議員撰擧の熱度は殆んど其頂上に達し各地方は勿論府下に於ても撰擧の事に加ふるに所謂中央政事家の周旋繁忙の端を啓きさしもに人口に嘖々たりし勸業大博覽會の如きも國會談に對して僅に消極的の反抗を試みたるのみ積極的に天下の產業心を喚起すると能はざるものゝ如くにして止み引續き三黨合同論あるものゝ出でゝより政黨員の離合集散最も繁く遂に政社法第二十八條の云々起りて夫れより黨分れ新合し先頃に至りいよ〳〵國會を開院して其議事の模樣は近日の紙上に連載したる通りにして有名なる商法施行期限案も延期と一決し又豫算委員は政府の要求額に大節減を加へて明年早々衆議院の議に付すべしといふ其結末は如何及び他に國會の議決する所は何れの邊にまで及ぶべきや何れも來春に持越すべき談にして百事匆忙天下の耳目をして殆んど應接に遑あらしめんとす要するに本年の政治社會は國會開設を中心として幾多の波瀾を生じたるものにして各種法律の續出したるも之が爲めあり憲法解釋論の囂々たりしも之が爲めあり而して政府部內に於ては海軍、文部、農商務、內務等の大臣更迭もあり將又條約改正に關する評論も起て以て政界の談柄を煩雜ならしめたる事なれば世間は唯評論騷擾中に日月を送たるの姿にして今や年の將に盡れんとするに當り往事を追想して其經歷を尋ぬれば米價騰貴の騷ぎも昨日の如く政黨離合の噂も猶は耳朶にあるの心地して此一年間の經過の殊に短きを覺ゆるは必竟此等の事變の人を驅逐して他を顧みるの遑なからしめたるが故なりと云ふべし、右の如く匆忙の裡に驅逐せられて經過せしものゝ其政治上及經濟上其の他社會一般に連環せる事變の結果は如何なる實相を現はしたるやと顧み來れば國會と云ひ貿易と云ひ金融と云ひ其他社會の事相多くは明年を俟ちて繼續するものなれば曆數の年は空に流れて盡くると雖も人事の年は未だ一年を終へずと云ふも不可なきが如し唯吾人の期する所は年と共に心事を新たにして芽出たく事を終り又芽出たく事を始め人事の一年を芽出たく始終するの一あるべきのみ

雜報

○獨り山形縣の洩れたるは如何　東北諸縣の中、山形縣の縣會議員初め有志者は非地價修正同盟會を組織し檄を飛ばして去る二十七日には同志者の大會を開く程にて恰も非地價修正の件に就て彼主働的の地位に立たん意氣込なれども同縣は先頃の府下諸新聞紙上に見えたる所謂林有造氏の特別地價修正案中に見えざるより之を同縣の某氏に質せしものありしに某氏は成程府下の諸新聞紙上には獨り山形縣のみ見えざれば同縣人より電信若くは郵便を以て彼の案にては果して山形縣は修正せざるや或は書き洩したるにて其實修正するものありや其邊如何と滯京中の縣人へ問合せ來るものあり位なれど林氏の調査せし草案には慥に山形縣も加はり居れば事の次第を急報せしに依り同縣人は一層激して遂に非地價修正同盟會を開く場合とはなりしも元來獨り山形縣を脫落せしみとは不思議なりと答へしとあり。

○奧羽人の地價調査　宮城外東北六縣の有志者十數名は先般林有造氏提出の地價修正案に於て奧羽地方の地價を引上ぐるみとゝなしあれど右は唯地券面の金額のみの比較より割出したるものなれば不都合なりとて目下京橋區八官町の奧羽有志者相談會事務所に集會して種々反對の材料を取調べ居れりとなり

○兵庫縣佐用郡民有志總代　兵庫縣佐用郡の有志者は政府提出の彼の郡分合法案に依れば同郡は赤穗郡に合併せらるゝものなるより大に不滿を抱き元來地形上よりして合併を適當なりと一般に認むる郡には合併の事ありしに獨り我佐用郡のみを合併するとは其理由果して如何にや宜しく總代を東上せしめて實情を帝國議會の議員に面陳すべしとて遂に同郡撰出の縣會議員竹內清一氏に其總代を依囑せしといふ

○法學士會の臨時會　同會員は去る二十八日上野精養軒に於て臨時會を開き今般商法實施の延期となりたるに就て山田喜之助氏の提出したる善後策を議決し且つ意見書を當局者に示すみとに決定し起草委員として穗積陳重、山田喜之助、大谷木備一郎、江木衷、菊地武夫、末延道成、中橋德五郎の七氏を撰定したりと云ふ

○大坂歲晚の景況　近年は年末每に不景氣の歎聲を耳にせざるなく殆んど商家の通弊の如くなるが取別け本年の歎聲は一層高し依て昨今大坂の金融は商況の不振より緩慢と云ふの外なく昨年の此頃は日歩四錢より五錢までの取引ありしも本月は銀行交換日歩二錢五六厘の据りあり然るに流石は歲晚のみとゝて當用口の稍や繁忙なるより二十四五日頃には一時三錢まで押上げたるも其後は又々下落して二錢八厘となり二十七八日には二錢六厘まで押下げ格別大口の取引なく只當用小口の需用ありし日本銀行大坂支店に於ては本月は大取引

ある月とて定め
しも左程の申出
出せし擔保品の
より割引申込者
し高あり左れば
は百六十餘萬圓
れは此の年末に
需に依ると雖も
より大坂の銀行
めあるべしと云
期せし爲め稍々
行を氣構へ又山
百分の一を帝室
噂さあるより兩
て漸く氣配を挽
爲めに株式市場
一千五六百枚あ
に至れり左れば
の商業家銀行會
とするの景況と
の大勢に歴せら
の掛け方至て
中重なるもの

山陽鐵道株
同第二株
九州鐵道株
關西鐵道株
大坂鐵道株
北海炭礦鐵道株
大坂紡績株
大坂商船株

米況は新米收穫
も肝腎の九州出
り少々宛の出荷
需用に充る位の
昨年の半額にも
二十五日堂嶋米
錢の高聲を傳へ
四十錢方の騰貴
內氣配は尙幾分
々[illegible]取組みもか
格は攝津五圓九
錢作州同上備前
七十錢因伯六圓
肥後同上肥前六
內外小間物類等
足らざる商況に
に合せおくの樣
き果てたるよし
て干物類、履物
掛けの其中にも
まり其他門松、
年の賣行に比し
○直江津鐵道延
敷設する事は廿
議より更に延長
願及び帝國議會
蒲原、三島、新潟
上京延長の請願
事とし其請書の
新潟市）